



## II. 大会実行委員会からのお知らせ

大会実行委員長  
渡辺 博

### 1. 日本科学哲学会第40回(2007年度)大会〔場所:中央大学・多摩キャンパス〕のプログラムについて

今年度大会のプログラムは、以下を予定しています(各プログラムの開始時刻、ワークショップ題目等の変更がありうることをご了承下さい)。

11月10日(土)

研究発表(9:00-12:00)

理事会・評議員会・大会実行委員会(12:00-13:15)

総会(13:15-13:45)

特別講演(14:00-15:00)

講演者:松下貢(中央大学教授)

シンポジウム(15:15-17:45)

「論理学における動的転回(The Dynamic Turn in Logic)

司会:山田友幸(北海道大学)

提題者:岡田光弘(慶應義塾大学)、中戸川孝治(北海道大学)、鈴木聡(駒澤大学)、

山田友幸(北海道大学)

懇親会(18:00-20:00)

11月11日(日)

研究発表(9:00-10:00)

ワークショップ(10:15-12:30)

I. 認知の神経科学的基礎に関する哲学的研究

オーガナイザー:河野哲也(玉川大学)

提題者:蟹池陽一(UTCP)、中澤栄輔(東京大学)、原 塑(東京大学)

II. 非合理とは何か

オーガナイザー:柏端達也(千葉大学)

提題者:浅野光紀(慶應大学)、塩野直之(福井県立大学)、三好潤一郎(関東学院大学)

理事会・編集委員会・大会実行委員会(12:30-13:30)

研究発表(13:30-14:30)

ワークショップ(14:45-17:00)

III. 感情の自然化はいかなる意味で可能か?

オーガナイザー:柴田正良(金沢大学)

提題者:伊藤春樹(東北学院大学)、月本洋(東京電機大学)、長滝祥司(中京大学)

大平英樹(名古屋大学・心理学)

IV. 双対性から論理と計算を捉え直す——領域理論から量子計算、相互作用の幾何まで

オーガナイザー:岡本賢吾

## 2. 研究発表の募集について

今年度大会の研究発表の希望者を募ります。希望される方はeメール添付のファイルか郵送にて、発表要旨〔B5版用紙1枚にワープロで800字程度、上部に題目・氏名・所属を明記のこと——採用の際にご提出頂いた原稿をそのまま予稿集の版下とします——〕を事務局宛にお送り下さい。この時メール本文もしくは別紙に、研究発表に際してプロジェクタ等の機器を使用する予定の有無についてもお書き添えください。

締切は8月31日まで（必着）とします。

なお、電子データ（eメール上での添付ファイルまたはフロッピーディスク）でお申込される場合は、本学会ホームページで「第40回大会 研究発表要旨作成上の注意」を公開しておりますので、そちらもご参照願います。

採否ならびに発表の通知は9月14日頃にeメールで行います。メールアドレスをお持ちでない方には郵送いたしますので、送付先を明記くださるようお願いいたします。

発表期日および時刻は、プログラム編成の観点から大会実行委員会で決定いたします。特定の日付・時刻を希望されても応じられませんのでご承知おきください。

## 3. プログラムの発送について

プログラム、出張依頼状、会場周辺図（附：交通案内）は10月中旬頃に発送いたします。シンポジウムおよびワークショップ資料はホームページに掲載の予定です。

# III. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長  
野矢茂樹

## 1. 論文応募要領の改訂について

論文応募要領の一部を改訂しました。以下に主要改訂部分を抜粋掲載いたします。新論文応募要領全文はホームページおよび、7月末刊行の『科学哲学』40巻1号に掲載されますので、必ず熟読の上ご応募くださいますようお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

### 論文応募要領（主要改訂部分）

- 4 応募の際必ず次の(1)、(2)を提出して下さい。両方が揃ったときに、正式な応募として受け付けます（なお、手書きで執筆の方は、事務局にご相談下さい）。
  - (1) 論文のプリントアウト計4部（コピーでも可）。事務局宛に郵送。
  - (2) 以下の5-7のような形式の、論文の電子データ（必ず手許にコピーを残して下さい）。事務局宛にメールで送付。メールが使用できない方は、MS-DOSフォーマットのフロッピーディスクを(1)とともに郵送して下さい（提出されたフロッピーディスクは、返却しません）。

- 
- 5 電子データが、Word ファイルである場合。そのまま添付ファイルとしてご送付下さい。
  - 6 電子データが、Macintosh 上のファイルである場合。ファイルをテキスト形式で保存したものを、添付ファイルとしてご送付下さい。
  - 7 電子データが、TeX で作成されたファイルである場合。ソースファイルを添付ファイルとしてご送付下さい (スタイルファイルをお使いの場合は、スタイルファイルも添付して下さい)。
  - 8 上記 5-7 以外の方は、プリントアウトした原稿を事務局に郵送の際に、ご利用可能なファイルの説明を付記してご相談下さい。

\*\*\*\*\*

## 2. 『科学哲学』第 40 巻 2 号 (2007 年 12 月発行予定) の特集テーマについて

ニューズレター No.36 でお知らせした次号の特集テーマ「数学の論理と哲学」への応募論文は、2007 年 7 月 9 日をもって締め切りとなりました。ただし、自由応募論文としてこのテーマに関連する論文をご投稿いただくことは、引き続き可能です。その際、次号に掲載可能な期日内で審査を終えることができない場合がありますのでご承知おきください。

## 3. 自由応募論文について

自由応募論文は随時受け付けています。なお、論文本体 (これはレフェリーに転送されることになります) には論文タイトル (日本語と英語) と英文要旨のみを付けることとし、著者氏名と所属については、別に添付した表紙に記して下さるようお願い申し上げます。

---

〒 192-0397 首都大学東京大学院 人文科学研究科 哲学教室内  
日本科学哲学会事務局  
fax. 042-677-2073 (「日本科学哲学会」宛であることを明記して下さい。)  
e-mail. philsci@comp.metro-u.ac.jp  
URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/pssj/index.html>